

5.2

係を決めよう

1. 題材設定の理由

子どもたちは、前時の「高学年として」において、学校の準リーダーとしてさまざまな活動に、目標をもって積極的に取り組もうとする意欲をもつことができた。

ここでの学習では、自分たちで係を決め、その活動を決定していくことを通して、自分たちの力で活動をつくり上げていく意欲をもたせる契機としたい。また、高学年としての決意を具体的な動きにすることで、より確かなものになると考えるからである。

更に、係活動に対して、具体的な活動内容をイメージし、「もっとこうしたい」という思いをもたせることによって、より自主的・創造的な活動につなげていく態度を育てたい。

2. 指導のねらい

自分たちの学校生活をより円滑なものにし、活動をより充実させるために、学級の係活動を考えて組織し、めあてをもって取り組むことができる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	<ul style="list-style-type: none"> 高学年としての自分の決意を確認し、自分なりに練り直しておく。 自分が必要だと思う新しい係を考える。
本時	<ul style="list-style-type: none"> 係活動に誠実に取り組むことの大切さを知る。 新しく設置する係を話し合いで決める。 自分のやりたい係を考える。 係を決める。 係活動に対する願いをもつ。
事後	<ul style="list-style-type: none"> 係決定後の各自の日常の取り組み方について振り返り、意欲を継続させる。

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
事前	<ul style="list-style-type: none"> 係を決めるにあたっての高学年としての決意をしっかりともつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「高学年として」の決意を確認する。 ・前時の学習を振り返り、思いに立ち返る。 ◎学級に必要な係を見つける。 ・今までの係を参考に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「高学年として」の思いや決意を見直し、1年間がんばりたいことをはっきりしておくように指示しておく。 	
はじめの活動	<ul style="list-style-type: none"> ・係活動に誠実に取り組むことの大切さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎作文を読み、「わたし」の思いの変化に気づく。 ・嫌だったことが楽しく思えるようになった理由について考え、仲間に認められる活動をしていくことの大切さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間に認められる活動をしたことが、更によりよい活動をしていく意欲につながっていることを押さえる。 	ノート①
課題：自分たちで係をつくり、願いを大切にしていって係を決めよう。				
中心の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「高学年として」の決意をもとに係を決め、その係活動で、自分の思いをどう具体的にしていってか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学級で設置する係を決定する。 ・活動内容を考えながら、係の統合や削除を行い学級の人数に対して適当な数の係に絞り込む。 ・絞り込んだ係の中で、それぞれの活動内容を明確にし、具体的な活動内容を知る。 ◎係活動に対する自分の願いをもつ。 ◎係の担当を決定する。 ・決め方を話し合う。 ・決め方にしたがって、係の担当を決定していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の願いから設置する係についてはあらかじめ提示し、自由に発想していいようにする。 ・設置する係が決まったら、どの係を希望するか各自に考えをもたせ、希望が重なった場合には、それぞれの願いを語らせる。 ・希望の重なりが多い場合には、それぞれ小グループに分けて、話し合わせる。 	ノート② ノート③
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の係活動に対して努力したいこと、工夫したいことなどの思いをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎決意をもとに、自分なりのめあてをもつ。 ・半年間の活動をイメージし、こんな活動ができればいいなという思いをもつ。 ・仲間の発表を聞いて、自分のがんばりの参考にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか具体的な取り組みがイメージできない子どもには、長所をあげながら、取り組みの例を援助する。見通しをもたせるようにして、学習をまとめさせたい。 	ノート④
事後	<ul style="list-style-type: none"> ・その後の仲間の活動ぶりを知ることで、自分の取り組みを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎仲間の決意を聞き、自分もがんばろうという意欲を高める。 ・メモなど用いて、自分の言葉で係活動にかかわってがんばっていることを具体的に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帰りの会などで少しずつ発表させることで、長期的な意識化をはかる。 ・発表の前には、事前に知らせ、活動中での努力や工夫について語れるよう準備させる。 	

《説話例》

太閤にまで登りつめた秀吉は、もとは武士ではなかった。身分制度の厳しい世の中であって、織田信長に認められ武将に取り立てられた。認められたことの大きな要因は、彼の細やかな心遣いがあった。主人の履物を懐に入れて暖めたり、自分より位の低いものたちにも、気を配ることを忘れなかつ

た。そうした努力の中で、彼はだれもが認める武士の頂点に立ったのである。努力して良い仕事をしようとし、周りの人を助けることは、ひいては自分のためになるのである。